

令和8年度 第1回学校運営協議会 報告

1. 日 時：令和8年5月29日（金） 午前9時30分から11時30分まで

2. 場 所：静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校

3. 出席者：竹居 寛信 様（心理発達相談員、特別支援教育アドバイザー）

荻野 耕介 様（伊豆介護センター在宅介護事業部課長）

望月 正仁 様（NPO法人伊豆高原BASE理事長）

辻 恵 様（伊東市防災チームBATON代表）

前田 光利 様（伊豆伊東高等学校PTA会長）

大川 美紀 様（本校PTA会長）

学校：佐々木雅則（校長）、三田薫子（教頭）、田中智子（高等部主事）、
室野亜美（教務主任）

4. 内 容 司会（田中・竹居） 記録（室野）

(1) 委任

(2) 校長あいさつ

(3) 学校運営協議会委員自己紹介

(4) 今年度の学校経営計画について

○学校案内資料を基に今年度の生徒数、居住地域、通学方法、職員数、時間割、行事などなどの学校概要を説明。

○学校経営計画について資料をもとに説明。社会に出ていく中で必要な力を育てるための取り組み目標7項目について説明。（以下の重点目標3つを重点的に説明）

・「互いを認め合い人権を尊重した教育の推進」

…今年度から2年間の人権教育の指定研究校となっている。人権教育年間指導計画に基づいて指導を充実させていく。3年間の学校生活全体で人権教育を計画的に学べるようにしていきたい。

・「卒業後の生活を見通した指導の充実」

…各学年の段階に応じた職場実習や進路指導の充実、将来の自立に向けて個別のニーズに合わせた情報提供をしていく。生徒や保護者にわかりやすい情報提供と情報共有をしていきたい。

・「併設校、地域との共生・共育の推進」

…伊豆伊東高校や地域との交流活動の企画や実施をしていく。移転して4年目。伊豆伊東高校との関係も昨年度より近づいている。碧春祭の生徒作成のパンフレットの表紙に伊豆高原分校名が表示され、体育の部の交流種目にわかりやすく印がついた。新たにリレーへの参加が安全面の配慮を検討した上で実現することに。地域交流は保育園との読み聞かせを含めた交流が増えている。

(5) 意見交換

保護者、関係機関とのよりよい連携体制の構築について

委員：ホームページの更新の仕組みについては、見る方がどの程度の情報を欲しがっているのか。あまり学校の手間にならない程度に更新されるとよいと思う。保護者の立場からするとどうか。

委員：ホームページを自分はあまり見ない。学校メールを確認することで精いっぱい。紙のお便りが助かる。ペーパーレスの時代であるが、データを印刷する環境が各家庭整っていないので、紙の方が自分は助かる。

学校：保護者アンケートだと、毎年ホームページの更新をもっとしてほしいという意見がある。昨年度から緊急連絡以外のお便りでも一部メール配信を始

めた。紙のお便りだと写真が白黒で見にくいので、カラーの写真を見られるメールは一部の保護者には好評のよう。ただ、全ての連絡をメールにすることは課題を感じているため、紙とメールを併用している。また、メールで配信できる情報量は限られているため、ホームページで学習の様子を載せている。年間行事予定等は防犯上の観点から掲載していない。

委員：自分の子の学校のホームページは見ないが、立場上、時々この学校のホームページをみている。うまいバランスで、手間にならない程度がよい。

委員：自分の子のホームページはよく見る。もっとたくさんの情報が欲しいと感じている。

卒業後の生活を見通した指導の充実について

委員：将来のことを考えると、生徒も保護者も不安なことに注目しがちになる。情報が多すぎるのも不安にさせるが、役に立つ大切な情報を共有できるとよいと思う。学校任せではなく、企業や事業所や地域の人など、いろいろな方が関わっていったらよい。

委員：保護者の参画意識は大切。子どもの可能性を学校側というより、保護者に見出してほしい。就労にこだわりすぎず、広く可能性を見つけない。学校側には個人スキルを伸ばすカリキュラムも作ってもらえるとありがたい。

委員：伊豆伊東高校に併設し、自然に関われる環境が、将来に向けてとてもよい環境であると感じる。

充実した業務ができる職場環境の構築について

委員：一番関心があるのは、直接子どもたちと関わる先生方の働きがい。現場のスタッフが一番大変。どのようにやりがいを生み出しているのか。

学校：年度始めは職員が新体制となり、新入生や保護者が見通しが持ちにくく不安な時期。職員の配置換えも多く、職員間での情報共有と相談、連携が必然的に多くなる。目の前の生徒、保護者の不安や課題への対応を一つ一つ丁寧に積み重ねながら、生徒の安定した登校や良いあらわれにつながることで職員のやりがいになっている。職員配置については、職員面談等で意向を聞いたり、相談をしたりして決定するとともに、業務のバランスが偏らないようにし、時間外勤務が多くならないように工夫している。

(6) 本校のコンプライアンス対応について

○「不祥事根絶取組計画」の説明。次の3つを意識して取り組んでいる。

- ・「風通しの良い職員室」「笑顔あふれる職員室」を推進
- ・不祥事を他人事と思わず、身近で起きているという意識で不祥事根絶を目指す
- ・小さな変化を見逃さず、問題が小さいうちにみんなで共有できる雰囲気作り

委員：予期せぬことがあるので難しいが不祥事を起こさないようにするしかない

学校：今の時期は、職場実習に向けて、実習先へ職員が車で出張が多い。車での出張前にはアルコールチェックをしていくことになっている。

委員：セクハラ、わいせつ、盗撮などニュースなどであるが、県内の学校で発生したことを知るすべはあるのか。

学校：新聞やネットで公開されている。保護者の方も県民の方の目も厳しくなっているので、保護者にも職員にも安心してもらえるように、疑いをもたれないよう、負担はあるが、様々なチェックやアンケートなどを行っている状況がある。

委員：SNSなど自分からリスクが高いところに入っていく子どもいる。そういう学習も充実させていただけるとよい。

学校：生徒間のSNSトラブルは多い。スマホ講座を実施し、使い方やリスクを学ぶ機会を持っている。

委員：教員の生きがいは、子どもたちの成長に伴走し、ともに考えられる過程ではないかと思うが、今は子どもたちとの距離感を守っていく必要もあり難しさもあるのではないかな。AIの時代だからなおさら心の関わりが大切だと感じる。そこができれば卒業後に社会にでてもうまく関われるのではないかな。

(7) 碧春祭(文化祭)校内発表参観

(生徒会企画全校クイズ・伊豆高原分校和太鼓演奏)

○感想

- ・伊豆伊東高校との交流はとても微笑ましい。伊豆高原分校の生徒を知ってもらえる機会であり、仲間意識を感じられる。
- ・交流の様子にも太鼓演奏にも感動した。若い力素晴らしい。より関係が深まるとよい。
- ・両校を題材としたクイズで、分校に関する内容の際、伊豆伊東高生が分校生に気軽に話しかけて答えを聞こうとする姿があり微笑ましかった。
- ・昨年よりも、両校生徒が自然に関わる雰囲気を感じられた。



＜碧春祭校内発表(生徒会企画クイズ場面)の参観の様子＞